

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

第45回 埼玉県医学検査学会情報



— 未来の私達のために —

運営部長 長澤 英一郎
さいたま市立病院

南アメリカ大陸初のリオ五輪も成功裡に終わりました。獲得メダルも過去最高の41個で、ニッポンの活躍に胸を躍らせたのではないのでしょうか？

そして12月4日(日)はリオの反対側、日本の大宮で第45回埼玉県医学検査学会が開催されます。メダル数のように「演題数が過去最高！」ということにはなりませんでしたが、予想以上にたくさんの方の演題をいただき、誠にありがとうございました。今学会が学会デビューという方も沢山いらっしゃると思いますが、9分間をフルに使って最高のパフォーマンスに『挑戦』してほしいと思います。

現在の運営部は、参加者の方々が「始まりから終わりまで、1日いて有意義な学会」を目指して日々準備に取り組んでおります。特に一般受付、ランチョン整理券配布、記帳台などの受付周りの混雑をなくし、スムーズな導線を確認するよう準備をしています。また市民ホール401号室の一角を利用して「味覚・嗅覚検査体験コーナー」を実施いたします。味覚検査の実技指導や直接機械を手にとってお試しできる貴重な機会ですので、是非お立ち寄りいただければと思います。

今学会の市民公開講演のテーマが「認知症」ということは皆様ご存じだと思います。講演1は「認知症予防のエビデンス」として朝田 隆先生、講演2は「健康寿命を伸ばす医療」として周東寛先生にご講演をお願いしました。先生方は認知症疾患の研究・予防のトップランナーでTV・雑誌などに多数出演経歴があり、万人に分かり易く講演していただけたと思います。また講演中には朝田先生監修の認知症テストも行いますので、ご自身の進行度合い？も把握できると思います。もし悲しい結果ならその場で先生に相談しちゃいましょう！そして学会フィナーレは埼玉県立久喜高等学校音楽部に合唱をお願いしました。内容は未定ですが音響版を使用した本格的なもので、美しい歌声とオリジナルダンスが1日の疲れを癒してくれること間違いナシです。

12月4日(日)は皆様方のお越しを実行委員一同心よりお待ちしております。

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 誰でもわかるプレゼンテーションのコツ！ ～院内勉強会から学会発表まで～

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成28年7月8日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：基礎教科－20点

講 師：霜島 正浩（株式会社 ビー・エム・エル総合研究所 営業統括本部）

参加人数：会員63名 賛助会員1名 非会員1名

出席した研究班班員：菊地孝司 富井貴之 阿保一茂 榊原外江 鈴木勤 立塚梓 石井孟
穴原賢治

研修内容・感想など

今回の内容は、プレゼンテーションのコツという内容で霜島氏に講師をお願いした。霜島氏は普段から多くの講演をされており、より実践的な内容になるだろうと予想していたが、いざ始まるとプレゼンの基本的な考え方やスライドの作り方を丁寧に教えられ、とても分かりやすい講演だった。プレゼンの目的は、聴き手（相手）をどういう状態にしたいか！という観点から入り具体的に思い描き、聴き手を明確に絞込み、その意見や感情、自分との関係などを理解する大切さがあると気付かされた。実際に普段の自分が作成するスライドでは色々な機能や色彩を多く使ってかなり拘ったものを作成していたが、本来の目的である聴き手に伝えるということを考えてみると、一番伝えたいことが本当にスライドの中や説明に含まれているのかは疑問が残っていた。今後は霜島氏のプレゼンのように聴き手が分かりやすく理解できるものを作成するべきと思った。

(文責：穴原賢治)

テーマ 病理検査室の医療安全 ～かくれた危険 みんなで摘み取り 先取り安全～

主催 病理検査研究班

実施日時：平成28年7月22日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 第13集会室 点数：基礎教科－20点

講 演 1：みんなで考えよう！ 病理検査室の安全対策

講 師：古谷津 純一（獨協医科大学越谷病院 病理診断科）

講 演 2：事故予防と改善の実際 ～些細な報告が重大事故を防ぐ～

講 師：渡邊 俊宏（上尾中央医科グループ 上尾中央臨床検査研究所）

司 会：岡村 卓哉（獨協医科大学越谷病院 病理診断科）

参加人数：会員55名 賛助会員1名 非会員1名

出席した研究班班員：岡村卓哉 渡邊俊宏 森田繁 荻真里子 金泉恵美子 三鍋慎也
細沼佑介 関口久男 高橋俊介 今村尚貴

研修内容・感想など

病理検査においても検体検査のように採血から結果報告までバーコード管理され人の手の介入が少なくなれば事故の発生を防ぎやすくなると思われる。だが病理検査では、各工程に人の手が介入することが多く、そのことが医療事故を引き起こす要因の1つとなり得る。今回は事例を交えてその原因や背景、改善案を講演いただいた。

講演1では事例をまじえ受付から結果まで工程ごとに要因と改善案の講演をしていただいた。マーフィーの法則では失敗する可能性があるものは必ずトラブルが発生すると言われていた。提示された事故要因や背景をきちんと分析して事故の起きにくい仕組みを構築することが事故防止へとつながる。

講演2では事故予防と改善の実際として些細な報告を収集・解析して対策を構築する取り組みを講演していただいた。スイスチーズモデルにあるように医療事故は偶発的に重なる穴を通り抜けて起こってしまうので、その抜け穴を監視することが重要である。また、ハインリッヒ

の法則には1件の重大事故の背景に300もの危険な事象があると言われている。日々の業務での些細な気づきに対する取り組みが重大事故を未然に防ぐ事へとつながる。

病理検査関連医療事故はメディアでも大きく取り上げられ報道されている。被害者を作らないため、また当事者にならないためにも常にこのことを念頭に置き、安全に業務を遂行できればと思う。
(文責：金泉恵美子)

テーマ プレセプシンとプロカルシトニンについて学びましょう

主催 血清検査研究班

実施日時：平成28年 7月22日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 905号室 点数：専門教科－20点

講 演 1：プレセプシンの最新情報について

講 師：大島 匠平（株式会社LSIメディエンス）

講 演 2：プロカルシトニンの最新情報について

講 師：山田 洋一（ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社）

参加人数：会員38名 賛助会員2名 申請中1名

出席した研究班班員：庄司和春 大島まり子 鈴木淳子 鯨井智子 中別府奈穂子 天野直樹
岩崎篤史 多川裕介

研修内容・感想など

演題1は大島氏にプレセプシンについて、最新の知見の紹介を含め説明していただいた。最初に敗血症(Sepsis)と全身性炎症性反応症候群(SIRS)について説明があり、従来の敗血症の定義は感染によって発症した全身性炎症性反応症候群(SIRS)というものであったが、敗血症の新定義として感染症に対する制御不能な宿主反応に起因した生命を脅かすような臓器障害というものになった。この定義は従来の重症感染症に相当する。また、敗血症の新診断基準として感染が疑わしいか、または確認されて、SOFAスコアが2点以上増加することという基準が使われる。次に症例報告として重症熱傷患者のプレセプシンとCRP、プロカルシトニン等他のバイオマーカーとの比較の説明があった。SIRSの時にはCRP、プロカルシトニン等は高値を示したのに対し、プレセプシンはカットオフ値以下であった。その後の経過で敗血症になった際にプレセプシンは他のマーカーより早期に上昇した。また、重症感染症の予後予測として重症敗血症患者を生存群と非生存群に分類して第1病日、第2病日、第7病日とプレセプシン、プロカルシトニンの値をそれぞれ測定したところ、プレセプシンは生存群に対し、非生存群はいずれの採血ポイントでも有意に値が高かったが、プロカルシトニンは生存群と非生存群で第7病日を除いて有意差は認められなかった。症例報告より、プレセプシンは敗血症の診断に際し、より早期に上昇する侵襲の大きい外傷・熱傷・外科手術などの影響を受けにくい、臨床経過・重症度をより良く反映するという特徴があることがわかる。これらのことより、プレセプシンは敗血症のマーカーとして有用であるが、GFR値が高値、特に透析患者で有意に上昇するため測定の際には注意が必要だと考えられる。

講演2は山田氏に日常診療におけるプロカルシトニンの有用性という内容で説明していただいた。最初に簡単にプロカルシトニン基本的な説明の後、講演1でも話のあった敗血症の新定義、新しい診断基準の説明とSOFAスコアの解説があった。SOFAスコアは重要臓器の障害度を数値化した指数であり、呼吸器をP/F比、凝固系を血小板数、肝機能を総ビリルビン値、心血管系を平均血圧、中枢神経系をGCS、腎機能を血清クレアチニン値で見えており、6項目各1～4点の合計24点の加点法スコアで表される。プロカルシトニンはSOFAスコアとの相関が良好であり、敗血症の重症度判定に有用である。また、プロカルシトニンによる敗血症モニタリングを行うことで、抗菌薬中止指標としての可能性も示唆されている。開心術後にプロカルシトニンが0.5ng/mL未満で、抗菌薬投与を維持しなかった場合、維持したものと比べ処方数が60%減少し、ICU入院日数、抗菌薬治療日数ともに減少したとの報告もあった。プロカルシトニンは腎機能低下患者において値はやや上昇するが、Sepsis症例では有意に値が上昇し、感染症の鑑別ができる。さらに間接リウマチや関節炎などの病態やキノロン・ステロイド・IVIg併用例などの薬剤の影響を受けにくいなどの特徴がある。

プレセプシン、プロカルシトニンともに敗血症診断に有用なマーカーであるが、それぞれに特徴があるため、その特徴を理解して測定を行うことが重要と考える。

(文責：多川裕介)

テーマ 生理検査研究班CD-ROMサーベイ2015報告会

主催 生理検査研究班

実施日時：平成28年 7月23日 14時00分～17時00分

会 場：北本市文化センター 第3会議室 点数：専門教科ー20点

講 師：生理検査研究班 班員

参加人数：会員28名

出席した研究班班員：早川勇樹 仲野浩 瀧澤義教 家城正和 野本隆之 関口智詠子

田名見里恵 丸山陽介 櫻井友加里 横尾愛

研修内容・感想など

2015年度のCD-ROMサーベイでは前年度のアンケートを踏まえ、新人教育用の基礎問題、教育問題をバランスよく出題できたため、概ね出題者の予想した通りの正答率となった。

調査目的として、呼吸機能検査の一秒率の予測値、心臓超音波ではEFの予想問題を出題させていただいた。現在多くの施設で使用されている一秒率の予測式では、高齢者が対象となった場合、施設によって倍以上の数値の差が出てしまっていることや、EFの予想する問題では施設間でかなりのバラツキがあったことから、今回のサーベイを行うことによって施設間差が大きく、非常に問題があることが判明した。今後はこのような問題を解決できる研修会も企画していく必要があると感じた。

アンケートでは、設問の内容よりも動画の再生に関する意見が最も多く、PCによっては再生できない、もしくは再生の仕方が分からないという意見があった。また、今年度になってCD-ROM送付のためのコストが増えたこと、解答を集計する担当者の負担が非常に大きいといった様々な問題を踏まえ、解決策を探りつつ今年度のCD-ROMサーベイに繋げていきたい。

(文責：丸山陽介)

求人案内

- 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会
総合母子保健センター 愛育病院
採用条件：非常勤職員（正職員採用予定あり）
連絡先：03-6453-7300 管理課 大塚
- 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会
総合母子保健センター 愛育クリニック
採用条件：非常勤職員 2名
連絡先：03-3473-8310 管理課 大塚
- 医療法人財団 聖蹟会 埼玉県中央病院
採用条件：正職員
連絡先：048-776-0022
総務人事課 根本
- 川越市保健所 衛生検査課
採用条件：臨時職員（パート）
連絡先：049-227-5104
衛生検査課 細田豊子
- 越谷市立病院
採用条件：正職員（平成29年4月1日採用の正職員）
連絡先：048-965-2221 内線2201
臨床検査科 吉原
- 医療法人社団 協友会 彩の国東大宮メディカルセンター
採用条件：正職員
連絡先：048-665-6166
人事課 採用担当 大山
- 医療法人社団CVIC 心臓画像クリニック飯田橋
採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：03-5206-5956 古澤・恩田
- 医療法人社団CVIC 大井町心臓クリニック
採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：03-5206-5956 古澤・恩田
- 一般社団法人 巨樹の会 所沢明生病院
採用条件：正職員
連絡先：04-2928-9110 内線140・141
総務課 三次
- 医療法人刀圭会 本川越病院
採用条件：正職員
連絡先：049-222-0533 内線310
事務部長代理 瀬川
- 川口市立医療センター
採用条件：臨時職員（パート）
連絡先：048-287-2525 庶務課 漆山
- 赤心堂病院
採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：049-242-1181 内線485
検査科 阿部
- 大宮シティクリニック
採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：048-645-1256 本部長 星野

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

平成28年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第6回 理事会議事録

日 時：平成28年 8月10日(水) 18時30分より

場 所：JCHO埼玉メディカルセンター

さいたま市浦和区北浦和4-9-3

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事)津田 神山 島村 岡田 矢作

小山 奈良 長岡 猪浦 石井

松岡 小島 濱本 藤井 長澤

神嶋 伊藤 濱田 武関 鳥山

阿部

(監事)細谷

欠 席：(理事)山口

(監事)遠藤

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は21名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (平成28年7月14日～平成28年8月9日)

7月14日(木)平成28年度公益社団法人第5回理事会：

津田、岡田、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、石井、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、伊藤、神嶋、濱田、山口、鳥山、武関、阿部、遠藤

7月15日(金)第45回埼玉県医学検査学会第11回実行委員会：

猪浦、長岡、長澤、武関

7月25日(月)埼玉県医師会精度管理委員会：

津田、神山、岡田、山口

8月4日(木)深谷市福祉健康まつり診療所開設申請作業：濱本、阿部

8月4日(木)第2回事業部会：

濱本、藤井、長澤、伊藤、神嶋、濱田、鳥山

8月6日(土)・7日(日)：第3回日臨技理事会：
岡田

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

- 1) 第15回日本未病システム学会臨床検査部会の後援の回答をした。
- 2) 第27回埼玉県大腸がん検診セミナーの後援の回答をした。
- 3) 日本医療マネジメント学会第6回埼玉支部学術集会の名義後援の回答をした。

2 総務部

- 1) 「埼臨技だより」第447号、8月15日発行予定

3 事業部

- 1) 7月25日、新入会員向け研修会報告書を日臨技事務局へ送付した。
- 2) 8月4日、深谷市福祉健康まつりにおける診療所開設許可を熊谷保健所に申請した。
- 3) 8月4日、第2回事業部会を開催した。
- 4) 埼臨技・技師養成校の意見交換会の出席者が確定した。

4 学術部

- 1) 平成28年度関甲信支部・首都圏支部医学検査学会の座長、シンポジウム質問者の推薦を行なった。

5 精度保証部

- 1) 特になし。

6 会計部

- 1) 平成28年度正会員費41名分205,000円、入会金37名分37,000円、合計242,000円の入金があった。
- 2) 生涯教育推進研修会助成金50,000円×1研修会、35,000円×1研修会、合計85,000円の入金があった。
- 3) 関甲信支部・首都圏支部合同血液検査研修会費100,000円の入金があった。
- 4) 埼臨技会誌Vo163 No1印刷代801,360円、埼臨技だより446号印刷代204,120円、会員名簿345,600円、仕分費1 3,672円、仕分費2 5,508円、合計1,360,260円を石井印刷へ振り込んだ。
- 5) 生理検査研究班4月の研修会の会計不具合について

7 精度管理委員会

- 1) 7月25日、埼玉県医師会精度管理委員会が開催された。
- 2) 9月10日、平成28年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査試料梱包作業予定。

8 一都八県会長会議

- 1) 特になし。

9 日臨技関甲信支部

- 1) 特になし。

10 日臨技

- 1) 8月6日・7日、第3回理事会が開催された。

11 第45回埼玉県医学検査学会

- 1) 7月15日、第11回実行委員会を開催した。

12 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会

- 1) 特になし。

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(平成28年度分)

平成28年 8 月 8 日現在

会員数 2,732名

(新入会員210名[平成27年度会員数2,587名])

賛助会員 78社[平成27年度 79社]

- 2) 平成29年度検体採取講習会 7月開催担当候補日について

第1候補を平成29年7月1日(土)・2日(日)、第2候補を平成29年7月29日(土)・30日(日)とし、日臨技へその旨を報告することとした。

2 総務部

- 1) 第45回埼玉県医学検査学会体験コーナー企画における機器等の借用について

3 事業部

- 1) 特になし。

4 学術部

- 1) 特になし。

5 精度保証部

- 1) 特になし。

6 会計部

- 1) 特になし。

7 精度管理委員会

- 1) 特になし。

8 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会

- 1) 学会実行委員について

IV. 議題

事務局

- 1) 特になし。

総務部

- 1) 特になし。

事業部

- 1) 特になし。

学術部

- 1) 特になし。

精度保証部

- 1) 特になし。

会計部

- 1) 特になし。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

真夏の青空の下、今年も全国高等学校野球選手権大会いわゆる夏の甲子園が熱戦を繰り広げ閉幕しました。個人的な感想ですが、今年は笑顔でプレーする選手が目立ったように感じました。つらい練習を乗り越え、各都道府県予選を勝ち抜いた結果の甲子園。ここまできたら全員で楽しむことを目標にしたチームも少なくないのかもしれない。

目標といえば個人でもそうですが組織の場合も目標設定は大事ですよね。目標達成に向けてより具体的にプロセスを構築していくことができると思いますし、迷った時も目標を再確認することで軌道修正できるのではと思います。

現在、来年1月1日からの新病院開院に向け私たちも様々な目標に向け取り組んでいます。思い通りにいかないことも多く先が見えない不安もありますが、こういう時こそ楽しむ気持ちを忘れず目標達成を目指していけたらと考える今日この頃です。

(長岡 記)

